

前田委員提供・参考資料

# 社協 MEETING

@国立市社会福祉協議会/中会議室

2020.8.5 / PM1:30 START

## ～はじめに～

- ▶ 本日は国立市社会福祉協議会までお越しいただきまして、ありがとうございます！
- ▶ この資料では当事者である私目線から、主に「からふらっと」の活動を紹介をさせていただきます。
- ▶ 本日は、CSWの職員さんと私当事者が協力し合って、プレゼンさせていただきます。別紙で用語集を作成しました。どうぞご活用ください。

## ～私が「からふらっと」に参加するまで～

☆「自立とは、

自分の責任において、生き方等あらゆる物事を自分自身で決めてゆけるようになること

である。

①2020年12月末に、自分から社会福祉協議会に電話

⇒CSWさん、世話人さんと面談、からふらっとの活動に誘われる

※社協を「行政官庁」だと勘違いしていたため、「役所ならば安心だろう」と考え、自分から気軽に連絡をすることができた



②1月 初めて参加した活動は散歩でした

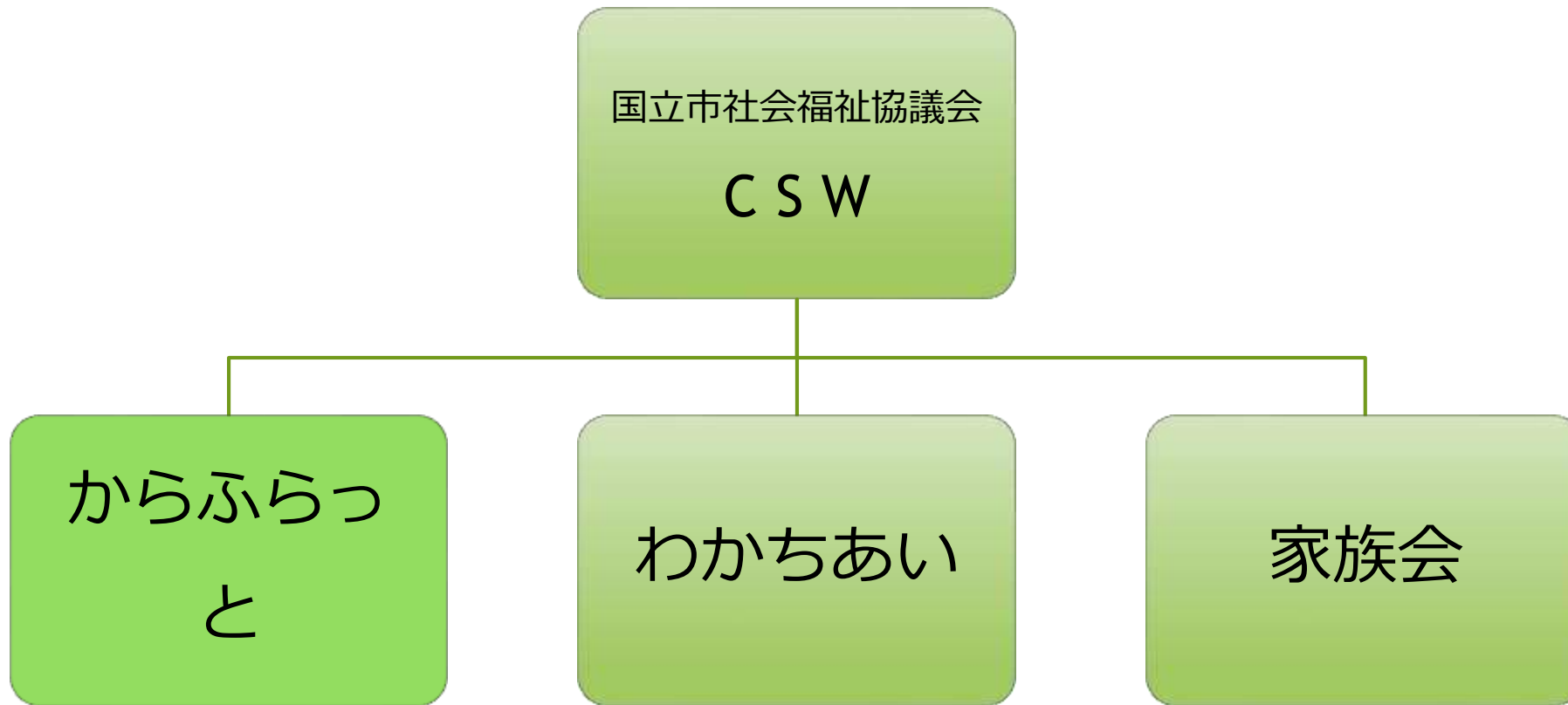
- 参加のハードルが低かったので、一歩踏み出すのには幸いでした。
- それでも初対面の人を相手にするのは怖かった・・・



③数回の定例会への参加を経て、今日に至る

- 定例会の無い日にも、ボランティアセンターで事務作業を手伝わせていただくなど、社協に顔を出すのが日課となった。
- 多くの当事者のメンバーと、この「事務作業」を一緒に過ごす時間の中で協力関係を作ることができた

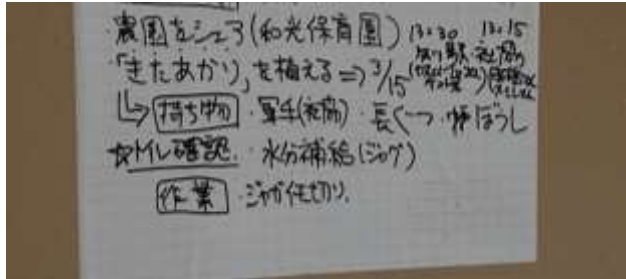
# 「生きづらさ当事者」のための居場所



↑本日は「からふらっ  
と」の紹介がメインに  
なります

# 「からふらっと」定期活動紹介

## ①定例会



↓当事者兼講師の方を招いてアート作品も作れちゃう・・・!?



←七夕飾りの準備。まずは竹を伐採するところから始めるのが「からふらっと」流

↑毎回、活動計画を建てます



◎定例会とは

⇒新しいアイデア、企画が生まれる場所であり、人と人が出会い、楽しい時間を一緒に作り上げる場所です。最初は「世話人」がトークテーマを設定するなど、受け身なスタンスの参加者がほとんどだった定例会ですが、価値観の違う当事者同士も回を重ねるごとに親睦が深まり始めています。

◎最近では参加者各自が自分のカラーを生かして様々なジャンルの活動が展開され、一回で二つの企画が同時進行することも!?

＜当事者からの一言＞

活動に顔を出し始めた最初の頃、自分が一番最初に参加したのは、近隣の散歩でした！懐かしい(\*´▽`\*)

春にも桜満開の桜通りを「からふらっと」の仲間と歩けたのは楽しかったです。来年もまたぜひ！

## 「からふらっと」定期活動紹介 ②農作業



←順調に育っている大豆。無農薬栽培なので、葉っぱには虫食いの跡が。



←収穫して、社協に持ってきた野菜。この日は完売でした



↑職員お手製の料金箱。不定期の販売ですが、たくさんの利用者さんが買ってくださいます

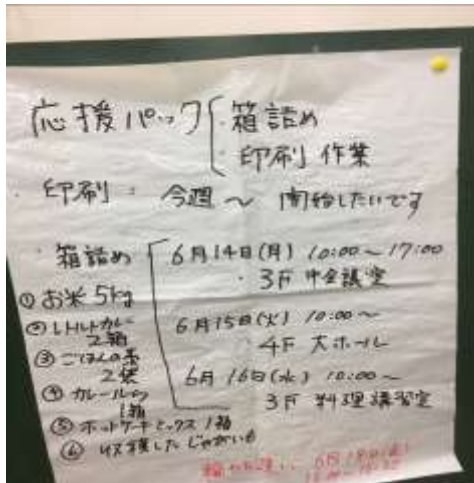
◎市内の方のご厚意でお借りした畑を使い、定例会に続く、新しい居場所として始まった活動です。定例会での雑談が苦手な人にも人気で、肥料の運搬などそれなりにキツイ作業にも関わらず積極的に参加してくださる方が多く、とても心強いです。

◎からふらっとの活動で栽培したジャガイモは、コロナ禍で辛い思いをしながら生活している人を支える「応援パック」のアイテムのひとつとして採用されました！受け取ったたくさんの人に喜んでもらえたことでとてもやりがいを感じる事ができました！その他収穫した野菜についても、不定期で販売、「からふらっと」の活動費にさせていただきます。買っていただいた方に感謝。

＜当事者から一言＞

実は初日にいきなり遅刻をして指導役の方に叱られてしまったのは、良い？思い出です(^▽^;) 応援パックの作業ではジャガイモが・・・

## 「からふらっと」活動紹介番外編 ～応援パック事業～



←限られた時間の中で最大限スピーディーに。  
この時の活動ではメンバーほぼ全員にCSWの職員さん達の緊張感が伝わってきました・・・



⇒収穫したジャガイモを、痛みが無いかどうか選別後、1袋3個ずつくらいにオリジナルデザイン（おしゃれ）の袋に入れていきます。

◎コロナ禍で大変な思いをしている方を支援するために国立社協では約250世帯に生活支援アイテム盛りだくさんの応援パックを配送することが決定し、「からふらっと」にも出動指令が。

◎CSWさんの指示のもと、大ホールを荷捌きスペースにして要領良く支援物資を一定数ごとに箱詰めしていきます。活動で収穫したジャガイモも一緒に。拘束時間は長いけれど、とてもやりがいのある活動でした。誰一人、途中で帰宅する者はおらず。

「からふらっと」メンバーは皆意識が高いと改めて感じた活動。

### ＜当事者から一言＞

自分たちの栽培したジャガイモを役立ててもらえたのと同時に、普段利用者と職員という関係の自分もこの時はCSWのお仕事にほんの少しでも携われた気がして、すごくやりがいのあった活動です。参加していた他のメンバーもきっと同じ気持ちだったはず。また機会があればその時もぜひ参加させてください。

## オリジナルグッズの紹介 ～缶バッジ作業工程～



①まずはデザインを紙に印刷して・・・



②できるだけ丸く切り抜きます。



③専用の機械で正確な大きさに整えて・・・



④プレス機でデザインをはめ込む



完成、(≧▽≦★)ノ



# 「からふらっと」の特色

～他の「居場所」と何が違うの??～

## 世話人という存在

- 自らも当事者でもある世話人さんの「Aさん」が、当事者と職員さんとの間に入り、コミュニケーションで伝わりにくい部分をフォローしていただきます。⇒ そのおかげで当事者それぞれが悩みや心の内を正直に話しやすい。

## CSWと当事者の関係性

- 職員という立場で業務的に何かを指示するのではなく、必要な環境や活動などを「当事者の目線」で、「一緒に」考えてくれる人がいることの安心感  
⇒ 特別用事がなくても、気軽に社協を訪れることができる（あいさつだけとかでも！！）

## 様々な支援者との連携

- 日本の「引きこもり」社会問題を研究する中国からの留学生の方が、フィールドのワークの場として「からふらっと」を訪れて当事者と交流
- 心理カウンセラーの方が家族会に参加。支援者との連携関係ができつつある。

# 現状の問題点と今後の課題

## 当事者間の連携

- 価値観・「生きづらさ」が違う当事者同士の目的意識の共有、方向性を一致させることの難しさ
- 最近では市外団体・UX会議からの参加者も多く、課題の解決が必要と感じる

## 居場所内の役割分担

- 世話人のリーダーシップのみに依存しない、当事者各自がそれぞれ能動的に動く環境を整える
- 最近では当事者が積極的に活動を提案するなど、この課題の解決しつつある

## 外部・支援者とのつながり

- 社会問題研究の学生さんや心理カウンセラーの先生など、「からふらっと」外の支援者とのかわり方について。⇒未着手
- 当事者メンバーのKHJによる「ピアサポーター」研修受講を検討→フォロー「される」側から「する」側へ

# 現状の問題点と今後の課題

◎当事者同士の連携が希薄、協力しづらい

理由 ⇒①人それぞれペースや、人に求めていることが違うため

②「生きづらさ」の範囲が広すぎて、共通の話題や活動を模索しづらい

◎世話人を務めている人が、何かのきっかけで活動を続けられなくなったら??

◎UX会議及び市外から来てくださっている方への対応。人数の増加に伴い。

◎居場所って何をすべき?

◎どんな味方を増やす? 私たちにとって必要な支援とは? (人、環境)

⇒ ①社会への、自分たちの存在のアピールの仕方 広報活動

⇒根本にあるのは、「自分たちの居場所は、自分たちでしか作れない。自分たちの方向性は自分たちでしか決められない。」

# 「からふらっと」の活動に参加した前と後とで、自分に起こった変化について

- ▶ 「からふらっと」に来てよかったこと
- ▶ 自分自身の生き方を真剣に考える時間ができた。
- ▶ 自分自身が、何ができて何ができないのかを知るきっかけ
- ▶ 自分たち当事者、同じ目線に立って向き合ってくれる人たちに出会うことができた。
- ▶ 職員さんたちの仕事を近い位置で見ることができた。
- ▶ 様々な価値観を持つ人、仲間になりたいと思えるたくさんの人たちに出会うことができた。
- ▶ 人の立場になって考えるということ、意識できるようになった。

# ま と め

## (居場所に関わる職員)の皆様へ私たち当事者が期待すること

- 当事者の視点から一緒に居場所について考えてくれる職員さんがいてほしい
- ➡より親しみのある協力関係を作りたい!

当事者・CSW  
さんとの良い  
距離感

地域の中での  
当事者の居場  
所

- 「楽しい」だけでなく、社協の一部業務をボランティアとして関わることができると、職員さんとの交流や普段の業務への理解が深まると思います。

- 相互間での定期的な勉強会や情報交換、家族会の合同開催

様々なジャン  
ルでの相互交  
流

コラボ活  
動!!

- 農作業をぜひ一緒にやってみたいです。喫茶「わかば」で提供するオリジナルメニューを一緒に作りましょう!!

# ま と め

## 私たち当事者が期待すること

- ▶ 国立社協のCSWの職員さんがそうであるように、「生きづらさ」を抱える人に、当事者目線に立って一緒に考える存在になってほしい。
  - ▶ 地域に活躍の場を！
  - ▶ 可能ならば、お互いに行き来してコラボ活動なんかを・・・ぜひ笑
  - ▶ 具体的には、定期的な勉強会や情報交換、家族会の合同開催などを！
- 
- ▶ 生きづらさを抱えた人の居場所という意味では1年先行して取り組みをしている国立ですが、（これから立ち上げる方々）の気持ちや立場は同じ同士・仲間だと私は（おそらく「からふらっと」の仲間も）思っています。